

国際プロジェクトの実践Ⅰ・Ⅱ

2005 年秋

1. 担当教員

I 藤野陽三教授 II 田中弥生助教授

2. 目的

国際プロジェクト・コースは国際分野で活躍する人材の輩出を目的に 2003 年より社会基盤学科に設置された。工学系の学科の中に国際分野専門のコースを設けているケースは世界でも稀である。本来、シビル・エンジニアリングは人々の生活の向上を目的に、技術開発と開発された技術の社会への有用性を追求する学問である。また、技術の適用は都市と地方、あるいは先進国と途上国で異なるし、したがって有用性の意味も異なってくる。その意味で、文化・慣習、社会制度や政策と技術のあり方をバランスよく組み合わせる必要がある。そのためにはまず様々な実践例を学ぶことから始めたい。

本講義の目的は、国際分野の一線級で活躍する日本人を招待し、国際援助や海外プロジェクトにおいて必要な技術、経験、知恵、教訓を学ぶことを目的とする。I においては、土木技術分野で活躍している人々を、II では政策分野で活躍している人々をゲストとして招く。

3. 内容

3 - 1 国際プロジェクトの実践Ⅰ

10月7日	台湾新幹線プロジェクトの実際	藤田宗久（清水建設）
10月14日	海外橋梁プロジェクトの実際	中村裕司（アイ・エス・エス）
10月21日	プロジェクト・マネジメントでの経験	澁谷 実氏（日本工営）
10月28日	進学生オリエンテーションのため休講	
11月4日	国際協力の現場 - 公的機関の立場から -	山村直史（JICA）
11月11日	開発コンサルタントから見た途上国開発の現場	葛野高文（日本工営）
12月2日	まとめ（技術と国際）	藤野陽三

3 - 2 国際プロジェクトの実践Ⅱ

11月18日	イントロダクション（国際援助の潮流）	田中弥生
	世界銀行のプロジェクト・サイクルⅠ	川畑安弘（世界銀行）
11月25日	世界銀行のプロジェクト・サイクルⅡ	川畑安弘（世界銀行）

12月9日	アフリカへの土質技術移転	木村亮(京都大学助教授)
12月16日	国際機関で働く人材育成	西野桂子(ジーエルエム・インスティテュート)
1月13日	JCIA プロジェクトと評価	三輪徳子(JICA)
1月20日	まとめ 田中弥生	

4. 採点方法

レポート(Ⅰ,Ⅱそれぞれ2回、合計4回)

1. 参考文献

下村恭民他「開発援助の経済学」有斐閣 2003年

高木保興編「国際協力学」東大出版会 2004年

2. 関連する講義など

国際プロジェクト序論

途上国プロジェクト特論